

令和6年度学校評価計画書（中間）

学校名（阿品台東小学校）

評価計画					自己評価					学校関係者評価 コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
基礎・基本の定着	◎基礎学力の確実な定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 標準学力調査の結果の共有と抽出児童（ステップ2）への全職員によるアセスメントの実施 全ての児童が参加し、分かる授業づくり(UD・ICT活用) デジタルドリルや音声計算等による既習事項の反復練習 学びを自己調整できるような振り返りの充実 地域学校協働本部と連携した放課後学習の実施 	<p>☆廿日市市学力定着状況調査（4年・1月実施）にあわせて全学年実施する標準学力調査(国語・算数)の結果、ステップ(到達度)1・2の割合。(中学校区共通)</p> <p>☆学期末単元テスト(国語・算数)の「知識・技能」の結果、学級平均の結果が期待平均値を上回った学級数。</p>	<p>国語 25%未 満 算数 25%未 満</p> <p>8/11 学級</p>	—	—	—	—	<p>学年末単元テストの期待平均値を上回ったクラスは、国語は9クラス、算数は6クラスであった。国語の漢字や言葉については概ね定着しているが、算数の基礎的な計算力等に課題が見られる。適宜、既習事項の復習を行ったり、実態に応じた反復練習を行ったりすることが不十分であると考え。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着について、九九の習得などがされておらず中学に入ってから支障がある。繰り返し習得することが大事であり、二年生でのみだと「もう終わり」と認識してしまうので3年生・4年と続ける必要がある。 ICT機器を活用して苦手なこともゲーム感覚で取り組めるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対して前向きに取り組んでいけるようになることが大前提なので、自己決定の場を設けた授業づくりや自ら学びに向かえるような学習環境の整備をしていく。 算数の思考の土台となる基礎学力の充実として、百ます計算や音声計算等を継続して、反復して計算を解く時間を設ける。
主体的に課題解決をする児童の育成	自分で考え自分から取り組む児童の育成	<p>【教科指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択と自己決定の場を設定した授業づくり 自ら学びに向かえるような学習環境の整備 総合的な学習の時間等を活用した児童主体の課題解決学習 <p>【生徒指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表委員会や委員会活動による、児童主体の活動の充実(学校をよりよくする運動等) <p>【健康教育部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活きりり週間による生活習慣の見直しと取組 	<p>☆全国学力・学習状況調査質問紙</p> <p>「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合」【市共通項目】</p> <p>☆児童アンケート</p> <p>「学習に対して、自分で考え、自分から取り組んでいる。」(教科指導部)</p> <p>「よりよい学校生活を目指して、自分で考え自分から取り組んでいる。」(生徒指導部)</p> <p>「生活課題を自分で考え、取り組むことができた。」9月・1月実施(健康教育部)</p>	<p>80%</p> <p>80%</p> <p>75%</p> <p>70%</p>	<p>86.8%</p> <p>83.8%</p> <p>85%</p>	<p>109%</p> <p>105%</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>全国学力の質問調査では昨年度の71.1%から15%以上向上している。児童にとって必要感のある活動を仕組んだり、主体的に学習に臨めるような自己決定の場を設けたりする等、児童主体の活動を意識したためと思われる。</p> <p>学習に対して、自分から取り組んでいる児童の割合は、低学年は87%、高学年は81%であった。研究授業等を通して、課題の選択場面や自由進度学習等の自己決定する機会を増やすことを意図的に取り入れたことが効果的であった。</p> <p>委員会活動や縦割り掃除、学校をよりよくする活動での成功体験を積んだことが、児童の肯定的な自己評価につながっている。しかし、受動的な児童が多く、「自分で考え」の部分については、経験不足が招く未熟さを感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 九九も最初は楽しくて張り切ってやるがついていけなくなると意欲がなくなってしまう。異学年との教えあいで定着させるとのことだったがまだ不十分だと感じる。割り算をするためにも九九が必要なので、九九をしっかり定着させなければならない。 九九が一番定着する(適時性)のが2・3年生なのでその時期にしっかりと定着させてほしい。 	<p>「ゆびとま!」の導入や縦割り班のリニューアル等の、児童のもつ学校への期待感や課題解決への意欲を尊重した取組を推進することを通して、発達段階に応じた「自分で考え、自分から取り組むことができる」児童の育成を目指す。</p>	
自己有用感の育成 (中学校区共通)	◎「つながり」の主体化・日常化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的活動の工夫・充実 児童の意見を取り入れた日常的な取組 ピア・サポートの活動(行事、学習) ひがしみつけ(掲示で知) 	<p>☆児童アンケート</p> <p>「自分のよさは周りの人から認められている。」</p> <p>※アンケートの文言</p> <p>「自分はまわりの人の役に立っていると思います。」</p> <p>☆児童アンケート</p>	<p>80%</p> <p>80%</p>	<p>79.5%</p> <p>79.5%</p>	<p>99%</p> <p>99%</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>ひがしみつけやピア・サポート、縦割り掃除等の取組が、期待に反して自己有用感や居場所感の向上に効果的に作用していない。その要因として、取組をする意義の理解や共有が十分にされていないことが考えられる。また児童が自己評価や相互評価する機会も日常的ではなく、承認し合える関係づくりが定着しているとはい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 不登校・いじめ等は外部との連携で解決していけばもっと改善できる。内部だけでなく、専門的な知識がある人との協力をしてほしい。 ほかの場所で勉強ができたり輝けたりする場があるのは 	<ul style="list-style-type: none"> ひがしみつけやピア・サポート、縦割り班活動などの取組の意義を児童と職員が共有し、日常的に自己評価や相互評価を行うことを通して、個々の児童が承認される機会を増やし、自己有用感や居 	

		<p>らせる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り掃除(気づき掃除, 掃除名人の掲示) ○居場所感を高める取組の導入 ・安心できる学級づくりの理論研 ・適応間尺度(アセス・居場所感)を反映した取組や活動の創造 	<p>「いつでも自分らしくいられる。」</p> <p>※アンケートの文言</p> <p>「自分にはよいところがあると思います。」</p>					えない。	<p>よいことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校に一度なってしまうと昼夜逆転など生活習慣の問題も出てくるため、居場所感等をどう育成するかがカギである。 ・教室に上がれないのは課題 ・コロナ禍の影響で対人コミュニケーション力の低下がみられる(ちょっとしたことで休んだり人間関係の修復が難しくかったり…)学校側が意図的にトレーニングをする必要がある。 ・学校以外の場があることはよいが、学校に来ることも大切。 ・居場所感の醸成や来やすい教室づくりに取り組む必要がある。 	場所感の確実な向上を目指す。
健康的な生活と運動への関心の向上	体を動かすことが楽しいと感じる児童の育成	<p>○年間を通した体を動かす活動(体力づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級遊びや縦割り・全校遊び等の取組 ・児童主体の体を動かすイベント(学期に1回) ・体育の授業における工夫(職員研修) 	<p>☆児童アンケート</p> <p>「外で運動したり遊んだりしています」(アンケート問11)</p>	80%	83.4%		104%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は運動会をとおして体を動かす楽しさを味わった。 ・1年生は6年生とペアでよく遊んでいた。最近あまり外遊びをしていないが、2学期からは大グラウンドが使えるようになる。 ・運動好きな子と室内遊びが好きな子に二極化している。クラス遊びなどで定期的には外遊びができるようにしていきたい。 ・体力づくり推進通信を発行、体育授業の改善のヒントを共有している。体育の実技研修を行い、体を動かすことが楽しいと感じる授業のヒントを学んだ。 ・体育で学んだことが、外遊びにも生かされていた。(鉄棒遊び) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期、保健体育委員会が企画した、全校遊びをし、外遊びを楽しむ。 ・より児童が運動をしたい、体を動かすことが楽しいと感じるような遊びができるようにする。例えば「体育館で遊ぼうデー(仮)」を設けてクラス遊びを推奨する。 ・縄跳び週間などで、クラスで取り組む運動遊びを推奨していく。
教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	◎子供と向き合う時間の確保に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・クリエイティブデーの充実 ・定時退校日の設定 ・会議の事前の時間設定(資料の事前配布含む) ・プロジェクトチームによる業務改善 	<p>☆教職員アンケート</p> <p>「子どもと向き合う時間が確保できていると感じる。」</p>	80%	79%		98.8%	B	<p>21%の教員が子供と向き合う時間の確保ができていないと感じている。</p> <p>業務内容の偏りにより負担がかかっている教員が21%に含まれているとすれば業務内容を公平にすることも一考しなければならない。</p> <p>クリエイティブデーの確保や研修回数など必要最低限に設定している。これ以上の時間の確保は難しい現状がある。</p> <p>生徒指導上の課題の負担も起因している。生徒指導の未然防止が重要である。</p>	<p>次のことを部で考えて改善策を出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容の精選(充実した研修内容にする意識改革) ・行事の見直し ・生徒指導に業務時間を取られるとするならば問題行動の未然防止など各部で検討する。

開かれた学校づくりに努め、家庭・地域との協働・信頼関係を構築する。	地域への関心と愛着を持たせる教育活動を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域への迅速かつ適切な対応 ・コミュニティースクールの活性化 ・通信、HPによる情報発信 	☆保護者アンケート 「学校の取組に満足している。」	90%	92.7%		103%	A	丁寧な保護者対応を心がけているが一部の保護者は、誠心誠意対応しても満足してもらえない傾向がある。学校だけでは限界がある。		保護者対応で難しい場合、PTA常任役員の方の力を借りることで改善された事例もある。協力してくださる保護者・地域の方に相談しながら対応することも検討すべき時代に入っている。
-----------------------------------	-------------------------	---	------------------------------	-----	-------	--	------	---	--	--	---

- 短期経営目標のうち、本年度の重点目標については、◎印で示し、◎印は全体を通して3項目以内とする。
- 重点目標を中心に「評価項目・指標」（めざす姿）を精選し、取組を進めること。
- 別途提示している「廿日市市学校評価共通項目」が「評価項目・指標」に含まれていることを確認すること。（【市共通項目】⇒廿日市市教育委員会の重点施策）